



—東地中海地域ニュース—

イスラエル：米国との関係（続報）

（3月16日付現地各紙）

3月16日の現地各紙は、ミッチェル米國中東和平担当特使がイスラエル訪問を延期するなど、引き続きイスラエル・米国関係が緊張していることを報じている。

1. 3月16日に予定されていたミッチェル米國中東和平担当特使のイスラエル訪問は、昨今のイスラエル・米国関係の緊張を理由に延期された。

イスラエル政府高官によれば、15日深夜まで、首相府とミッチェル側との調整が続けられたが、同特使は最近の両国関係の状況が緊張する中、対パレスチナ和平の進展に対する影響に鑑み、今回の訪問を適切なタイミングとは判断しなかった。米国高官は、米国の要請（3月17日付「かわら版」No. 38 参照）に対するイスラエルからの回答が得られるまで、同特使の訪問は延期すると述べた。

2. イスラエル政府高官は、二国間関係は緊張しているものの、3月21日に予定されているネタニヤフ首相のAIPAC総会に向けた渡米は予定通りに取り進められていると述べた。

3. 15日、ネタニヤフ首相は、イスラエルを訪問中のブラジル大統領を歓迎するイスラエル国会での演説で、エルサレムでの住宅建設を継続することを述べた。

また、同首相は同日のリクード党会合で同党議員の質問に答えて、10カ月間の西岸地区のユダヤ人入植地住宅建設一時停止が終了する9月には、同住宅建設を再開することを発言した。